

【昨年度の取組】

取組 ※「結果・分析・取組シート 4 取組」を転記  
 ・3年生は、「学び合い」を深化させ、活用問題等にも対応する力をつけていきたい。受験に向けての学習ではなく、今までの積み上げを活かし、「学ぶことの楽しさ」を深めていきたい。  
 ・1・2年生は、学ぶ姿勢についてはまだまだ課題が大きい。3年生の「学ぶ姿勢」から学ぶことができる機会を作るとともに、今の3年生の姿を目指して日々の授業を行っていく。生徒の個性や特性が生かせる自由度の高い課題を設定し、授業の中で生徒がわくわくし、熱中するような授業を行っていく。

取組状況(どう取り組んだか)  
 ・中3(現高1)は、受験に向け日々『学び合い』で力をつけ、1・2年と成績が伸びなかった生徒も後半で大きく力をつけ、志望する高校へ入学することができた生徒が多かった。  
 ・中1・2(現中2・3)は、中3から学ぶ姿勢を学ぶため、進路が決まった先輩の講話や、実際に先輩が学習している様子を見るなど、自分の学習の在り方を見つめよりよくしていこうと考えることができる取組を仕組んだ。同時に、教師は課題設定をどのようにするか考えたり、『学び合い』をどのように行うか、生徒へ語ることに力をいれた。

【校内研究体制の構築・再構築】

※「福山100NEN教育」8th year 基本的な考え方 P3,11,14を参照

研究テーマ  
**自ら考え、共に学び深め合う生徒の育成  
 ~生徒が主体を持つ協働的な学びを通じて~**

研究体制  
 研究主任を中心に、各主任、管理職で学校の現状を協議・分析しながら取り組むべき内容を決定している。本校が研究を進めている『学び合い』に重点を置き、生徒の実態を把握する中で、全教科で推進している。  
 年度初めに「教材研究」を通して教科の内容や系統に関する理解を深め『学び合い』で生徒の発言の意味や価値を捉えられる「課題設定」を行うことを確認した。その視点を中心に管理職・研究主任による授業観察や校内研修を行う。

研修計画  
 ○年2回以上、個人で授業公開を行い、課題設定を重点に話し合う。  
 ○公開する授業以外でも気軽に互いの授業を参観し合うことを推奨する。  
 ○年間を通じた校内研修で『学び合い』の理念や手法の理解を踏めたり、授業改善へのモチベーションを高めたりする内容を設定し、教師の主体性を育成する。  
 ○価値のある『学び合い』のための「課題設定」を「教勢研究」で創造するという視点から夏季・冬季校内研修を実施する。

教材研究  
 ・教材(単元)の目標を子どもの姿で捉える。  
 ・教材に即したつまづきをイメージする。

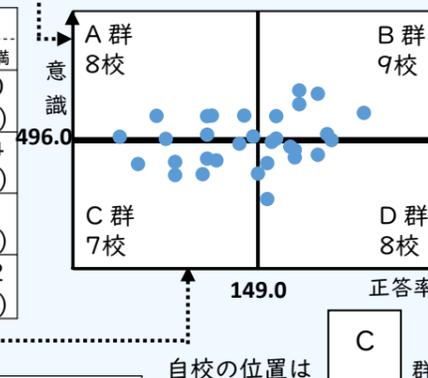
【取組の結果】

(1) 全国学力学習状況調査 [生徒質問紙](%)

番号	質問事項(「主体的・対話的で深い学び」に関する項目)	「1」「2」を回答した生徒の割合			
		市	自校現中3生		自校現中2生
			今年度	昨年度(中2時)	
36	1,2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	55.5	55.9	57.5	61.1
37	1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	76.7	83.5	88.4	87.7
38	1,2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	69.4	71.2	83.8	83.4
39	1,2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。	75.3	71.2	84.5	76.7
40	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	79.1	76.3	86.4	82.3
41	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	69.8	67.6	89.3	80.5
42	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。	70.2	68.4	—	79.9
36~42の意識合計		496.0	494.1	489.9	551.6

[正答率](%) ( )内…正答率:市平均,無答率/40%未満:国平均

	2021(R3)			2022(R4)			2023(R5)		
	正答率	無答率	40%未満	正答率	無答率	40%未満	正答率	無答率	40%未満
国語	60 (63)	5.7 (4.4)	20.0 (11.9)	74 (67)	2.3 (4.3)	5.0 (10.2)	65 (66)	5.0 (4.6)	13.0 (10.4)
数学	52 (53)	12.8 (11.2)	38.6 (25.1)	53 (45)	8.3 (10.8)	29.3 (33.7)	44 (45)	11.1 (9.6)	43.4 (32.8)
英語	—	—	—	—	—	—	36 (38)	5.6 (5.7)	61.1 (44.9)
合計	112 (116)	9.3 (7.8)	29.3 (18.5)	127 (112)	5.3 (7.6)	17.1 (22.0)	145 (149)	7.2 (6.6)	39.2 (29.4)



[調査問題] ※ 課題となる問題を選択し、課題と考えられることを記入

問題番号	要因(何を課題と考えるか)
国語 4三	生徒が書くことへ苦手意識をもっていること。また、タブレットの活用等から実際に書く機会が減っていること。
数学 5,7	不確定な事象についてデータに基づいて考察する場面で、データの特徴や分布の傾向を読み取り、考察・判断することの必要性が実感できていない。
英語 4	まとまった文章から、重要な情報は何かを判断したり、説明の要点を捉えたりすることに課題があり、目的・場面・状況に応じた表現に触れる機会が不足している。

(2) 学力の伸びを把握する調査 ※ 学年平均を記入

[学習方略] ( )内は市平均

	柔軟的方略			プランニング方略			作業方略			認知的方略			努力調整方略		
	R3	R4	R5												
1年	—	—	3.5 (3.4)	—	—	3.4 (3.5)	—	—	3.5 (3.5)	—	—	3.7 (3.8)	—	—	3.7 (3.8)
2年	—	3.4 (3.5)	3.3 (3.4)	—	3.5 (3.6)	3.3 (3.3)	—	3.5 (3.6)	3.3 (3.4)	—	3.7 (3.8)	3.7 (3.6)	—	3.7 (3.9)	3.5 (3.5)
3年	3.5 (3.4)	3.3 (3.3)	3.4 (3.5)	3.6 (3.5)	3.4 (3.4)	3.4 (3.4)	3.6 (3.6)	3.4 (3.4)	3.5 (3.5)	3.9 (3.7)	3.6 (3.6)	3.8 (3.7)	3.8 (3.8)	3.5 (3.5)	3.6 (3.5)

[学力を伸ばした生徒の割合](%)

	R3→4		R4→5	
	国語	数学	国語	数学
2年	—	—	55.5 (62.3)	70.9 (63.7)
3年	58.3 (60.7)	59.7 (65.8)	51.1 (55.4)	76.6 (71.5)

[調査問題] ※ 問題の概要等を参照し記入

問題番号	要因(何を課題と考えるか)
国語 5,10	漢字や語句の意味を推測し、適切な言葉を選択することに課題がある。
数学 5(5)	具体的な事象における2つの数量の関係を一次関数とみなし、変化や対応の特徴をとらえることに課題がある。
英語 10,11	まとまりのある英文を読んで、重要な内容やことばを正確に読み取ることに課題がある。

【分析】 ※ 今年度の結果に対する評価及びその要因を記入

評価(結果をどう見たか)  
 ・全国学力学習状況調査の学力調査において、3年生は全教科で、正答率が市平均を下回り、無回答率が上回った。  
 ・学力の伸び調査の学力調査において、3年生は数学と英語で、2年生は数学で、1年生は国語で、それぞれ「学力を伸ばした生徒の割合」が市平均を上回った。  
 ・学力の伸び調査の学力調査において、3年生の英語と数学以外、全教科で平均正答率が市平均を下回った。  
 ・全国学力学習状況調査の生徒質問紙「主体的・対話的で深い学び」に関する項目において、3年生は「自分から考える」「自分の考えをまとめる」関連の質問で市平均を上回った。  
 ・学力の伸び調査の意識調査において、3年生では、各方略の合計値は+0.6%、2年生では、-0.7%であった。(1年生は去年の明確なデータがない)

要因(なぜそのような結果になったか)  
 ・3年生は、1,2年生時、人間関係のトラブル等が多発し、授業に集中できない時期が一定期間あり、『学び合い』において生徒を課題に真剣に向かわせることができなかったことが、全国学力の結果に表れていると考えられる。  
 ・一方で、学力の伸びの調査において3年生は最も『学び合い』を多く実施している数学において学力を伸ばした生徒の割合が5.2ポイント、正答率が0.1上回っている。また、生徒質問紙から、「自分で考えること」などの項目が市平均を上回っている。また、学びの伸びの調査において2年生の数学でも、学力を伸ばした生徒の割合は7.2ポイント市平均を上回る。  
 ・こうしたことから、生徒が自分たちで考え、課題解決に向け自分のペースで学習する『学び合い』は一定の成果があるが、生徒に力をつけるためその質の向上が必要であると考えられる。

【今年度の取組】

※ 分析と仮説に基づき、取組と検証方法を記入

仮説  
**価値のある『学び合い』を実施し、生徒同士が学ぶ楽しさを実感すれば、学校が目標とする21世紀型スキル&倫理観を身に付け、学力が向上するのではないかと**

取組	検証方法
○課題設定にこだわる 単元で付けたい力や教材の価値を踏まえたうえで、本時で生徒にどんな課題を与えるのかを考える。(シンプルに、具体的に、既習事項を関連)	○生徒アンケート 年間3回、全国学力学習状況調査の生徒質問紙の中で「主体的・対話的で深い学び」に係る質問項目を全校生徒に尋ねる。
○全員達成にこだわる 授業初めに全員達成を求め、最後に評価し、できなければどうするかを考えさせる。	○期末テスト 授業者が期末テストで思考問題を出题し、事前に予想正答率を設定し、生徒がどの程度達成したかを評価する。
○チーム東中にこだわる 授業の課題を日々の会話の中でお互いに出し合い、授業者同士が参観したり、課題を話し合ったりする。『学び合い』の理念を念頭に置いた生徒との関わり、ファシリテートを日々教育活動の中で大切にする。	